

# 學 會

## 岡山醫學會第384回通常會

同會は豫期の如く本月18日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會す定刻に至り緒方庶務主幹開會を報し直ちに次の講演を開始す。

### 1. 脊髄液に於ける マイニツケ 第2清澄反應に就て

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室

和田 雅之君

本演題の要旨は既に本誌に投稿中に付茲に省略す。

### 2. 2, 3筋組織の Acetylcholin 感受性と Cholinesterase との關係に就て

附 1, 2組織の Acetylcholin 量に就て

岡山醫科大學生理學教室

米澤 末治君

蛙、蛇、龜、蟻の分離筋に Acetylcholin を作用せしめ其の感受性を檢したるに蛙股筋最も低く、蛇、龜の筋肉之に次ぎ蟻直腹筋最も敏感なるを知れり(最低5萬倍、最高150萬倍 A-C 溶液)而して此感受性の相違は勿論種々の關係によるならんも各筋の保有する Cholinesterase 量も亦其の一因たるべきを思ひ前諸筋の抽出液を作り生理的及び化學的方法(Abdon, Uvnäse)に依り Esterase 量を検せるに若干の除外例ありしも蛙筋最も大にして蛇、龜の筋肉之に次ぎ蟻筋最も小量を示し大

體に於て感受性の低き動物程 Cholinesterase の働大なる成績を得たり。

尙ほ家兎の正常頸部神經節、同坐骨神經及び同變性坐骨神經の Acetylcholin 量を検せるに per gr 量頸部神經節 4、正常坐骨神經 2、變性坐骨神經 0.4γ にして電氣刺戟を加へたるものと然らざるものとの間には殆ど差異なく稀に電氣刺戟を加へざるものに於て少しく減少せるを見たり。

又牛肝臟の Acetylcholin 量を検せるに per gr 量 0.1γ 乃至 0.5γ を證明せり。

### 3. Cholesterin, Lecithin による抗體產生竝に過敏症實驗

岡山醫科大學衛生學教室

青木 操君

從來 Cholesterin 及び Lecithin の免疫には賦活體として豚血清を添加せるが、かかる免疫方法は諸種の不便竝に障礙を檢査上に及ぼすを以て余は全く抗原性を有せざる Adsorbin に之等の藥物を吸着せしめたるものを用ひて抗體の產生を見たり。而して此兩藥物は夫々特異なる抗體を產生し何等近縁反應を認むることなし抗 Cholesterin 血清は Cholesterin Lecithin 混合抗原及び Wassermann 氏抗原に對しては強く沈降反應竝に補體結合反應を示し牛睾丸竝に牛肝臟酒精「エキス」には比較的良く反應するも單獨 Cholesterin 抗原及び牛心臓酒精「エキス」に對しては反應弱し。然るに抗 Lecithin 血清は Cholesterin Lecithin 混合抗原に對しては強く牛睾丸竝に牛肝臟酒精「エキ

ス」に對しては比較的良く單獨 Lecithin 抗原、牛心酒精「エキス」並に Wassermann 氏抗原に對しては反應弱し、抗 Cholesterin 血清は Cholesterin 及び牛睾丸並に肝臟「エキス」にて吸收試験を行ふことを得ると同様に抗 Lecithin 血清は Lecithin 及び牛睾丸並に肝臟にて吸收することを得たり。

抗 Cholesterin 並に抗 Lecithin 血清には Forsmann 氏抗體を認めず、而して Cholesterin は抗體抗原の結合を促進する作用のあることを知れり。

試験管内反應に於て抗 Lecithin 並に抗 Cholesterin 血清に強く反應を示す反應原は過敏症實驗

に於ても亦強き反應を示すことを能働性過敏症實驗に於て認めたるも被働性過敏症實驗に於ては發症困難なり、これ抗體が血中の抗原と結合消失するため感作すること能はざるによるものなり、従つて抗血清を用ひて海狸に逆過敏を惹起せしめ得たり、尙ほ抗過敏症實驗も可能なりき、全實驗を通じ過敏症は甚しく輕症にして大量の抗原再注射に非らずんば發症せしむること能はざるものなり。

右終りて午後 6 時閉會す、當日の出席者は 30 餘なり。

---

## ◎ 岡山醫學會第 385 回通常會

同會は本年 12 月 16 日午後 4 時より岡山醫科大學に於て開會す